

水士里ネット大菊

水土里ネット大菊の位置及び地勢

水土里ネット大菊の概要

- ・地区面積 1,694ha
- ・組合員数 2,041名
- ・総代数 57名
- ・役員数 理事17名 監事3名
- ・職員数 職員4名 嘱託3名
- ・賦課金 事務費(運営費)2,000円/10a
維持管理費500～1,500円/10a
- ・H16年度予算額(一般会計)271,249千円

水土里ネット大菊の現状

- ・ **担い手**(後継者)不足
- ・ **都市化**(混住化)の進展
- ・ **知名度**(土地改良区の)

2 1 世紀土地改良区創造運動

- 1 . 総合学習の教材提供
- 2 . イベントへの参画
- 3 . イベントの開催
- 4 . 水循環型営農運動推進

総合学習の教材提供

出前講座



(勉強会)



(施設見学会)

総合学習の教材提供

井手の清掃



総合学習の教材提供

魚のつかみ取り



(農業用用水路でのふれあい)

イベントへの参画

1. 熊本県農業フェアへの出展

- ・ 開催日 H16.10.23 ~ 24

2. すぎなみフェスタ(菊陽町)

- ・ 開催日 H16.11.7

3. からいもフェスティバル(大津町)

- ・ 開催日 H16.11.14

イベントへの出展状況



イベントの開催

田んぼの学校in白川中流域

～水に遊び・学び・楽しむ～

開催日：平成16年8月8日

参加者：都市部及び地元の児童、保護者(約150名)

- 目的**
- ・水土里ネット及び地下水かん養機能の
アピール
 - ・都市と農村との交流

土地改良施設の見学

地下水かん養の話 九州東海大学 市川教授

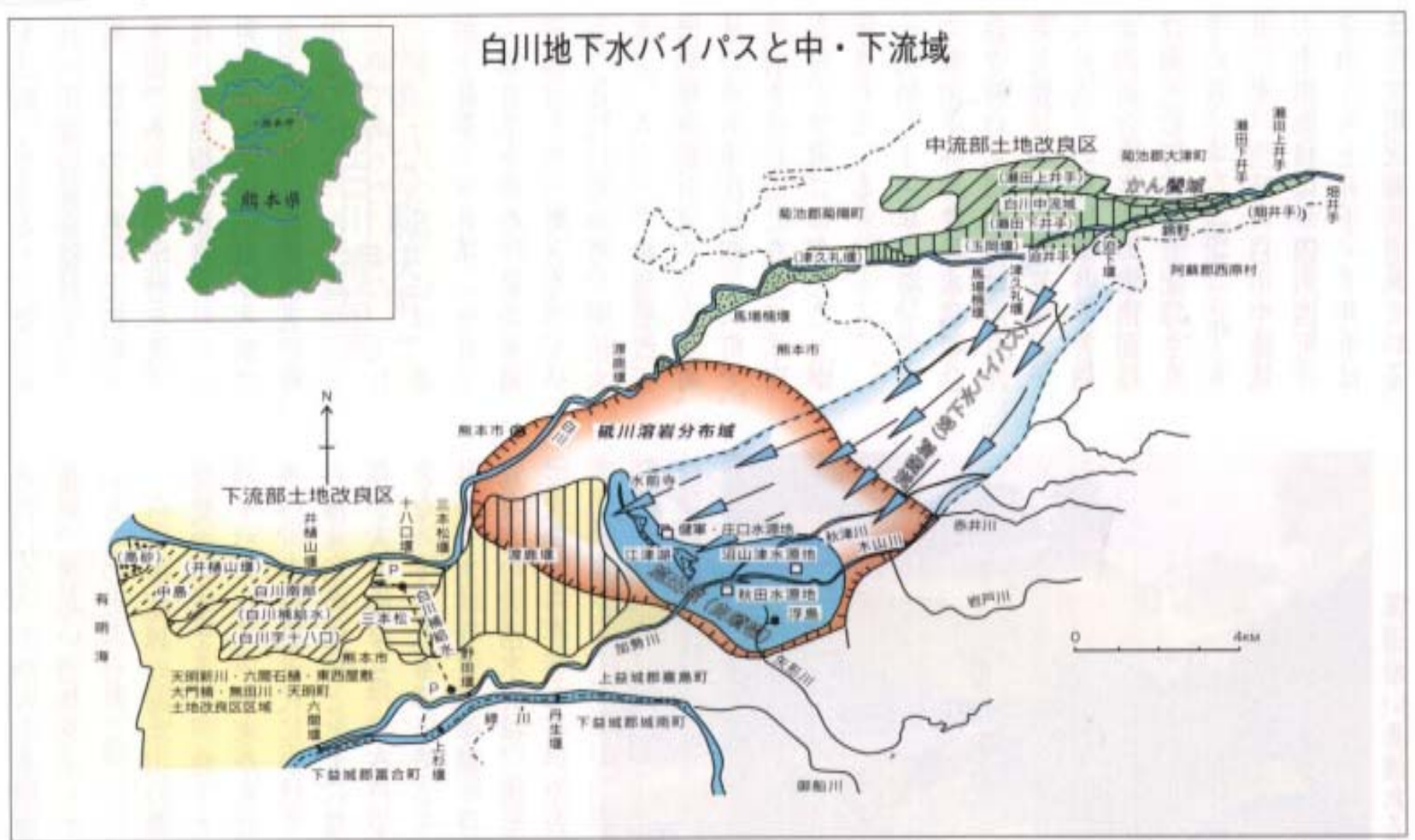
ど る ん こ 遊 び

水循環型営農運動

地域の特性

- ・ 熊本市圏100万人の生活用水
- ・ 地下水の湧水量の減少
- ・ 白川下流域の“水がめ”
(地下水かん養機能:多面的機能)

地下水の流れ



減少する地下水とその原因

・湧水量の変化 (水前寺・江津湖)

昭和35年

約100万トン



現在

約40万トン(日量)

・原因

都市化の進展による涵養域の減少

水稻の生産調整(減反率 約50%)

隣接土地改良区との連携

白川中流域土地改良区協議会の設立
(錦野・迫井手・大菊・馬場楠堰土地改良区)

H15.4.1

～農を守って水を守る～

水田営農の一環として湛水

目 的

連作障害防止
線虫駆除
土壌機能の維持回復

時 期

かんがい時期(5月～10月)

期 間

1ヶ月～3ヶ月

湛水例

大豆作付前の湛水
にんじん作付前の湛水
飼料作付前の湛水
その他

企業との連携

- ・ソニーセミコンダクター九州

工業用水として年間約110万トンの地下水を使用

- ・水田湛水農家に助成金

- ・湛水協力農家との交流

ソーセミコンダクタ九州

記念に「田植え」

菊陽町の水田

「白川中流域」

ソーセミコンダクタ九州（福岡市）は二十四日、菊陽郡菊陽町で地下水涵養（かんよう）事業を始めたのを記念して、「田植え式」を行った。同事業は白川中流域土

地改良区協議会、JA菊陽などが協力。田畑に水を張って地下水保全に役立てるとともに、地下水の浸透度を把握しようと今月初めから大津、菊陽両町の畑に水を張り始めた。

地下水涵養事業 ソーセミ協力田



約四十戸の農家が収穫が終わった畑と水田合わせて約二十八畝に一月間、水を張る予定。同社は水田で収穫されたコメ約一・二トを農家から買い取り、熊本テクノロジーズセンターの食堂で使う。コメ以外を生産する農家には「協力金」を支払う。同社の負担は

「一年間で数百万円」という。初年度は水張りによって約八十万トの地下水を涵養できる見込み。熊本テクノロジーズセンターでは本年度、工場用水として約八十万トの水を使用する計画。

この日は水張りの一環として、同社が菊陽町で田植え式を行った。同社が水涵養への取り組みから発信できるという思いで、同社が約十人が苗を植

水張りに協力する農家の水田で田植えするソーセミコンダクタ九州の社員ら
「菊陽町の水田」

広げよう地下水涵養

研究機関との連携

・九州東海大学工学部 → 減水深調査

・熊本開発研究センター ↔ 情報交換

・環境ネットワークくまもと

水循環型営農推進協議会

設立 H15.10.17

目的

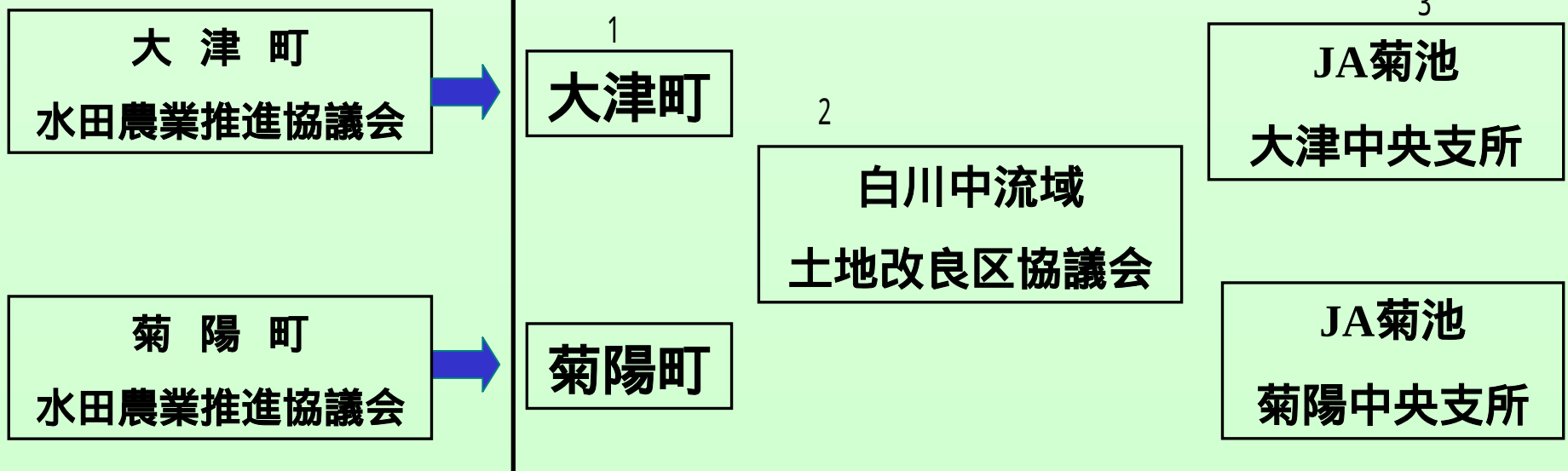
- ・ 水田営農の推進
- ・ 農地の多面的機能を通し、地下水涵養対策に協力

水循環型営農推進協議会 組織図

熊本市



水循環型営農推進協議会



- 1 啓発体制を活用した推進
- 2 水張り面積等の取りまとめ
- 3 JAと連携した作付等の調整

白川中流域における水田湛水推進に関する 協定書の締結(H16.1.21)

熊本市 ・ 大津町 ・ 菊陽町
水循環型営農推進協議会

目 的

1. 白川中流域における農業及び農業の果たす地下水かん養の重要性について住民の相互理解を深める
2. 大津町、菊陽町及び熊本市の相互住民及び事業者の交流を促進する
3. 環境保全型農業及び農産物の地産地消の普及啓発を図る

白川中流域水田活用協定調印式

熊本市長 熊本県知事 理事長 大津町長



全国初…高まる期待

水張り畑で農作物も高品質に

熊本市は来年度から、全国に誇る地下水を次世代に継承するため、白川中流の灌漑(かんよう)域に当たる菊池郡大津、菊陽町の協力で、保全事業に乗り出す。両町の農家が協力、水田から転用した畑などに一定期間水を張ってもらうことで、五年後には灌漑量の年間約三千万ト、5%近いアップを狙う。「市民の生命線」である地下水の保全に向け、自治体が広域連携する全国初の取り組みに、期待が高まっている。

地下水保全へ熊本市、大津町、菊陽町が連携

熊本市圏の地下水位は年々低下している。過去二十一年間で、同市水前寺が約三十六センチ、菊陽町辛川では約三十三センチも下がった。水前寺・江津湖の湧(ゆ)水量も十年間で20%減少した。

■浸透力は5倍

これに対し、同市の地下水採取量も事業所の循環利用拡大、農業利用の減少などで減っている。

にもかかわらず、地下水位が下がり続ける大きな要因は、「都市化や水田減少などによる灌漑域の減少」に指摘されていた。

両町など白川中流域は、雨水が地下に浸透しやすい地域。浸透能力は通常の水田の五倍以上にもなる。白川中流域の水田などから浸透した水は、地下の阿蘇火砕流たい積物に蓄えられ、五十年を経て、都市圏にわき出す。

同市は「地下水保全にどて半分は野菜などの畑は白川中流域での灌漑量アップが最も効果的」として畑での水張りに着目した。両町の水田面積は約千八百ヘクタールだが、減反などによって代わりの、助



地下水保全に向けた協定を調印後、握手する(左から)、幸山政史熊本市長、潮谷義子知事、富永清次菊陽町長、大村直純大津町長。21日、県庁。

成金を支払う。「地下水の入り口に直接水を注ぎ込む」(市水保全課)という単純明快な発想だ。

■「灌漑ブランド」

畑への水張りには、土壌中の害虫駆除や連作障害の抑制など農業面での効果も確認されている。四年前から水張り畑で試験栽培している大田黒忠勝さん(宝島)は「大津町は「水と太陽と土」による何らかの作用で栄養がつくり出され、化学肥料ゼロでも高品質のニンジンがとれる」と、その効果を実感。二月下旬には、農家や消費者、研究者らによるネットワークを立ち上げ、効果を検証していく。

両町は農協、土地改良区と共に、水張り効果を利用した「環境保全型農業」を推進していく。大消費地である同市は、水張り畑で栽培された農作物を「地下水灌漑ブランド」として、消費の拡大を図る。市民はもとより協力農家にとっても期待の持てる事業だ。

方
本
駅

2

四月、第五高等学校(現熊本大学)に英語教師として赴任した。蔵石が上熊本駅の前身、池田駅に在りし。日原の

JA熊本果実連 支援開始

連画
実計
JA果
04年

紙パックに専用工場

熊本
工場内 地下水涵養は37秒で

JA熊本果実連（浦田
勝会長）は八日、熊本市
小山町の本部で臨時総会
を開き、二〇〇四年度（〇
四年十月一〇五年九月）
の事業計画を承認した。
本部の熊本工場内の製品
倉庫を紙パックの製造ラ
イン専用工場に整備す
る。

〇四年度は熊本工場の
再整備などを盛り込んだ
中期三カ年計画の二年目
で、設備投資額は計画ベ
ースで前年度の二倍弱の
二十六億五千九百万円。
製品倉庫を改築、紙パッ
クの製造ラインを移設
し、専用工場とする。紙
パックの製造ラインは従

来、柑橘（かんきつ）類
の搾汁（さくじゅう）や
缶製造ラインと同じ工場
内にあった。

一方、青果の販売額は、
台風による収量減などが
原因で、前年度の百七十五億五
千六百万円を見込んでい
る。温州ミカンが八十二
億五千万円、デコポン三
十六億円、ナシ八億三千
二百万円など。青果事業
では、出荷時期の早い温
州ミカン「肥のあかり」
など新品種への更新を進
めるほか、販売の一元化
を促進し、県産ブランド
の確立を図る。

アヲカルト

前セミナー

十四日午後二時から
女性センターで、
相談会を開く。セ
エイチ・アイ・エ
「フリーターから
」をテーマに講演。
弁護士や司法書士、
法律、税務など経
る。いずれも無料。
会議所 ☎ 096 (354)

ショップ開業

本市）は9日、1
ークリーム専門店
オープンさせる。
店を展開する「麦
の直営店。注文を受
るのが特徴。1個
期間限定で営業し
ト販売の「カスピ
まで再出店させる。
ーカーのスタート

また、畑に一定期間水
を張る農家を助成する地
下水涵養（かんよう）事
業は、延べ三十七秒で実
施する。

熊本日日新聞
H16.10.9

協力農家へ助成金

湛水期間	金 額
1ヶ月	11,000円 / 10a
2ヶ月	16,500円 / 10a
3ヵ月	22,000円 / 10a

水張り状況



水張り状況



H16.6 熊本県 菊池郡 大津町

熊本市環境フェアー



豊かな地下水を育むネットワーク

設 立 H16.2.29

目 的

- ・ 生産者と消費者の緊密な連携
- ・ 安全かつ高品質な農産物の生産・供給
- ・ 熊本都市圏の地下水保全
- ・ 都市と農村の共生

豊かな地下水を育むネットワーク

構成員 個人(46名) 団体(5)

個人 生産者 ・ 消費者

研究者 4名(九州東海大学)

団体 熊本環境消費者研究会,
環境ネットワークくまもと,
JA菊池, SONY, 水土里ネット

豊かな地下水を育むネットワーク

農家と消費者連携
大津町でネットワーク設立

て昨年夏から設立準備を進めてきた。大田黒さんはニジシンの作付け前の一定期間、畑に水を張ることで病害虫を抑制し、農薬を使用せずに済む水(たんすい)農法に取り組んでいる。ネットワークは同農法の普及により、安全な農産物と質の高い地下水を供給するため、農家と消費者の交流を募集中。年会費三千

を旨指す。

設立総会には農家、消費者のほか研究者、環境NGOら約三十人が出席。規約や事業計画などを決めた。会長に選ばれた大田黒さんは「地下水保全の効果を挙げるために、多くの熊本市民の参

加に期待したい」と語った。同ネットワークは会員を募集中。年会費三千

保護者には大きな拍手を送っていた。

「さうして、さういふことをしなさいと云ふのは、
誰にとがだ。」

www.ck12.org

熊本日日新聞
H16.3.1

豊かな地下水を育むネットワーク

ニンジン畑に水張り 豊かな地下水を育むネットワーク



「ニンジンとともに地下水もはぐくんでいる畑です」と話す大田黒さん＝菊池郡大津町

ことし二月、農家と消費者、研究者、環境NPO、企業などが連携して「豊かな地下水を育むネットワーク」を立ち上げた。同ネットワークは、熊本地域の重要な地下水かん養地域である白川中流域の農家に呼び

掛け、転作した水田や作付け前の畑に白川から引いた水を張り、地下水かん養に取り組む。

発起人は同ネットワーク会長のニンジン農家・大田黒忠勝さん（ふじ）＝菊池郡大津町。平成十三（二〇〇

一）年から、作付け前のニンジン畑に水を張る湛水（たんすい）農法に挑戦。「水を張ると、土の中のニンジンの害虫を駆除できま

は地下水のかん養にもつながり、まさに「一石二鳥」と大田黒さん。

この試みに熊本市が目。ことし四月から、菊池郡大津町と菊池町の農家に、大豆やニンジンの植え付け前の畑に、水張りをしてもらい地下水をかん養する事業をスタートさせた。

一方、同ネットワークでは、この農法で採れた野菜を今秋ブランド化。「水の恵み」を名付けて売り出す。「例えば、うちの畑で採れたニンジンは一畝当たり二、三余りの地下水かん養の「おまけ」付き。その上、減農薬ですよ」と大田黒さん。消費者は購入することで地下水かん養活動を支えることになる。

大田黒さんは「今後は地元の家畜のフンを原料にした有機肥料を使った循環型農業や、水と土と太陽の力だけに頼る無肥料栽培にも取り組みたい」と、新たな挑戦を考えている。

熊本日日新聞
H16.10.13

豊かな地下水を育むネットワーク



地下水涵養農作物 ロゴマーク

今後の方針及び課題

水循環型営農運動の推進

H16 274ha H17目標 480ha

地下水涵養農作物地産地消の推進

田んぼの学校の継続

各種団体との連携強化

総合学習等への教材提供